

市長が行く

新市民会館について



茂原市長 田 中 豊 彦

「老朽化した、耐震化もしない市民会館をいつまで使つていくのか」という意見

を何度も耳にしてきました。財政にもっと余裕があれば、すぐにでも取り掛かりたい課題の一つではあります。しかし、茂原市の財政を考えると、箱モノ建設については、逡巡せざるを得ませんでした。

箱モノに関しては、厳しい予算の中、今までにも学校や市民センターの耐震化、本納の複合施設の建設を行いました。また、これからは学校の給食センターの建設も控えてます。今後少子化が進み、税収が減つっていく中で、膨れ上がつていく医療費や介護費の問題もあります。どんなに立派な市民会館ができるても、

茂原市がつぶれるようなことになつては、元も子もありません。

しかし、今、そんな状況から、一步前に踏み出そうとしています。新市民会館建設に向けて府内での検討委員会を設け検討した中で、今回基本構想策定のためのプロポーザルを実施しました。数社が手を挙げ、その中で実績のある（杉並公会堂、東京国際フォーラムなど）株シアターワークシヨツプに依頼することとなりました。市民の意見を反映するためのワークシヨツプは、全部で5回開くことになります。先日約30名を公募し、7月20日に第1回目のワークシヨツプが開かれ、すでに3回実施したところです。いかに少ない予算で、より良い市

民会館ができるか？効率的に使うためには、どの程度の大きさが望ましいのか？これから様々な立場からいろいろな提案が出ることを大いに期待しています。ただし、まだ建

設するかどうかはファイフティファイフティです。先に書いた給食センター建設以外にも、生活に密着した広域事業（ゴミ、水道、消防、病院など）の更新事業が控えているため、多額の支出が想定されています。広域の事業ですが、茂原市は約60%負担しますので、大きな支出となります。これから茂原の未来を担う若者たちや、子どもたちへの負担を少なくするために、中止することも視野に入れて、検討していきたいと考えております。